

宇部市教育委員会教育長賞

「前を向いていくために」

宇部市立常盤中学校 1年 森 珠紀

「〇〇川が氾濫しました。」

この言葉を最近多く耳にするようになってきました。そして、一面茶色の水に覆われている映像が流れてきます。私は、このニュースを見ると、昔のことを思い出します。

私が幼稚園生だったとき、近くの川の堤防が決壊し大規模な洪水が起こりました。幸い私の家は被災せずに済みました。しかし、いつも通っていた橋や道、家が水に沈んでいる光景に、大きな衝撃を受けました。母親が慌てている様子が事の深刻さをさらに実感させていました。まだ小さかった私には、ただ見ていることしかできません。何も出来ないことに呆然としていたことを覚えています。

洪水から数ヶ月後、私の住んでいるアパートの一階に洪水で家をなくしたおじいさんとおばあさんの夫婦が避難してきました。最初に会ったときは、恥ずかしくて何も話せませんでした。少しずつ挨拶をするようになり、その後、おじいさんとおばあさんの家に遊びに行くようになりました。二人の話を聞いて、心に残っていることが二つあります。

一つ目は、初めて部屋に入ったとき、おじいさんが、

「この洗濯機も冷蔵庫も机も服も全部支援物資なんだよ。」

と教えてくれました。それらを見て支援の速さに驚きました。被災した人たちは落胆し心身ともに疲れてしまっています。それを助ける為に支援はとても大

切だと気付かされました。

二つ目は、おばあさんが言っていた、
「ボランティアさんが家の片づけを手伝ってくれたのは本当にありがたかった。」

の言葉です。おばあさんにとって泥だらけで使えないと分かっている自分では捨てられない物がありました。ボランティアさんが、どんどん捨ててくれたおかげですっきりした気持ちになり、頑張ろうと思えるようになったそうです。ボランティアさんの頑張りが、気持ちを前向きにしてくれるのはとても素晴らしいことです。頑張っている人の姿を見た人が頑張ろうと思ひ、またそれを見た人が頑張っていく。そんな頑張りの輪がどんどん広がっていったことに感動を覚えずにはられませんでした。

被災しないこと、これが一番いいことなのは分かります。とはいえ、今は誰がどこで被災するのかなんて分かりません。もし、被災してしまったときの備えは、とても重要になっているのです。そして、被災した人々への、支援や手助けが前に向くための重要な要素であると考えます。近年異常気象により、被災してしまうことが多くなっているように感じます。私にも、そのような人たちに元気を出してもらうために、できることがあると思ひました。これからは、何ができるのか、何をすればいいのかを考え行動していきたいです。

